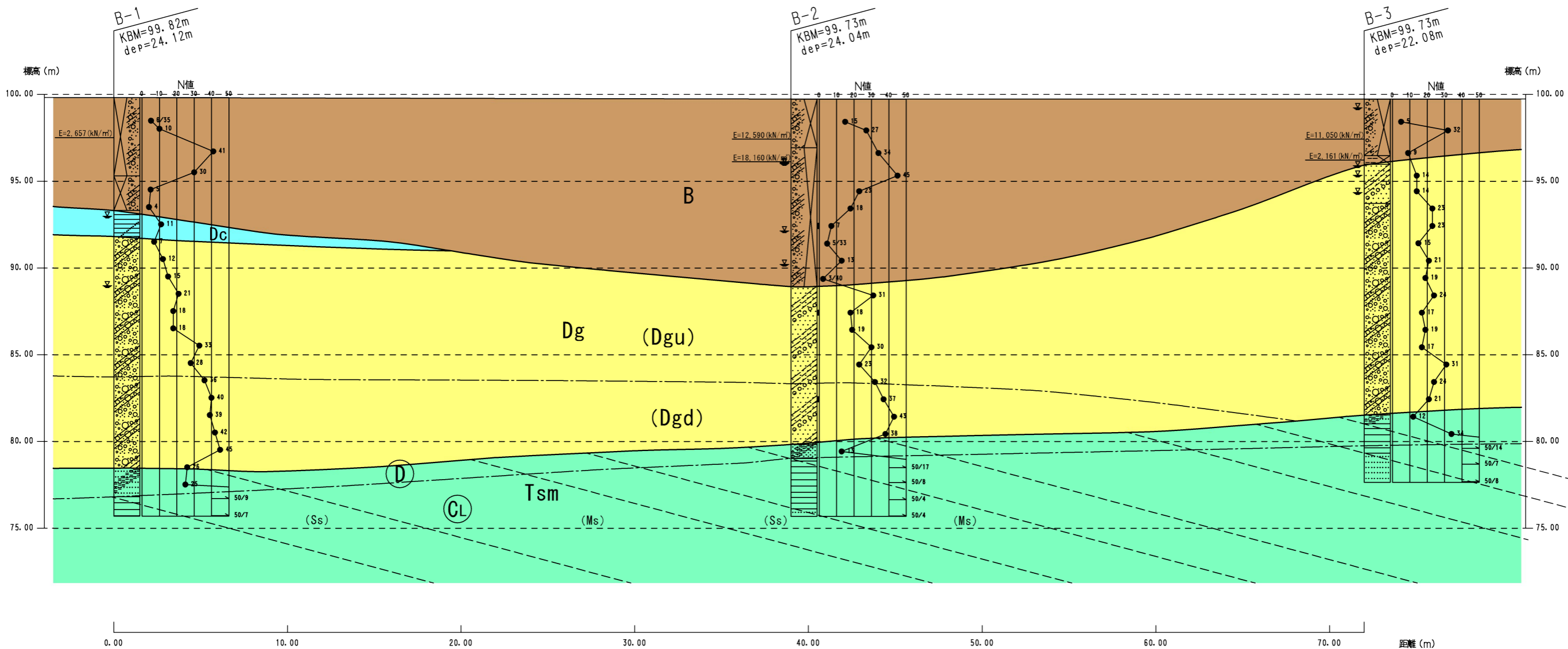
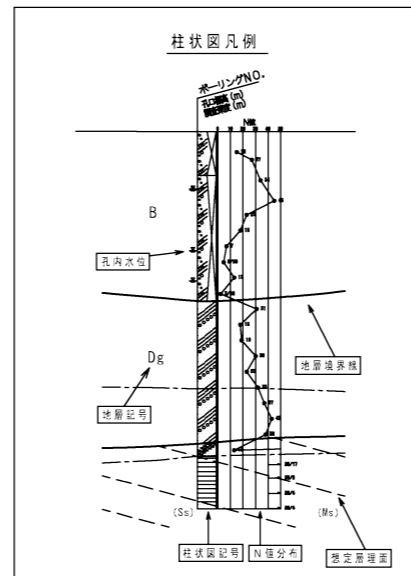


A-A' 断面

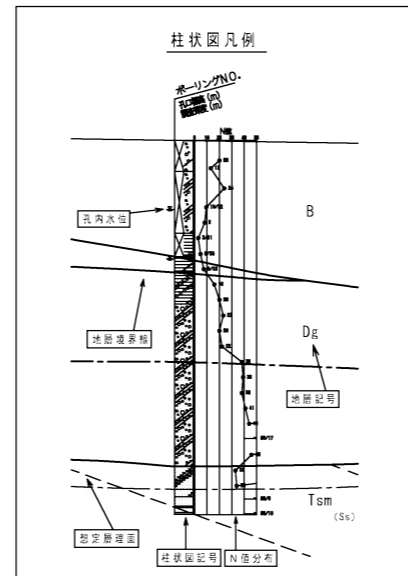


地層断面図(A-A') S=1:250

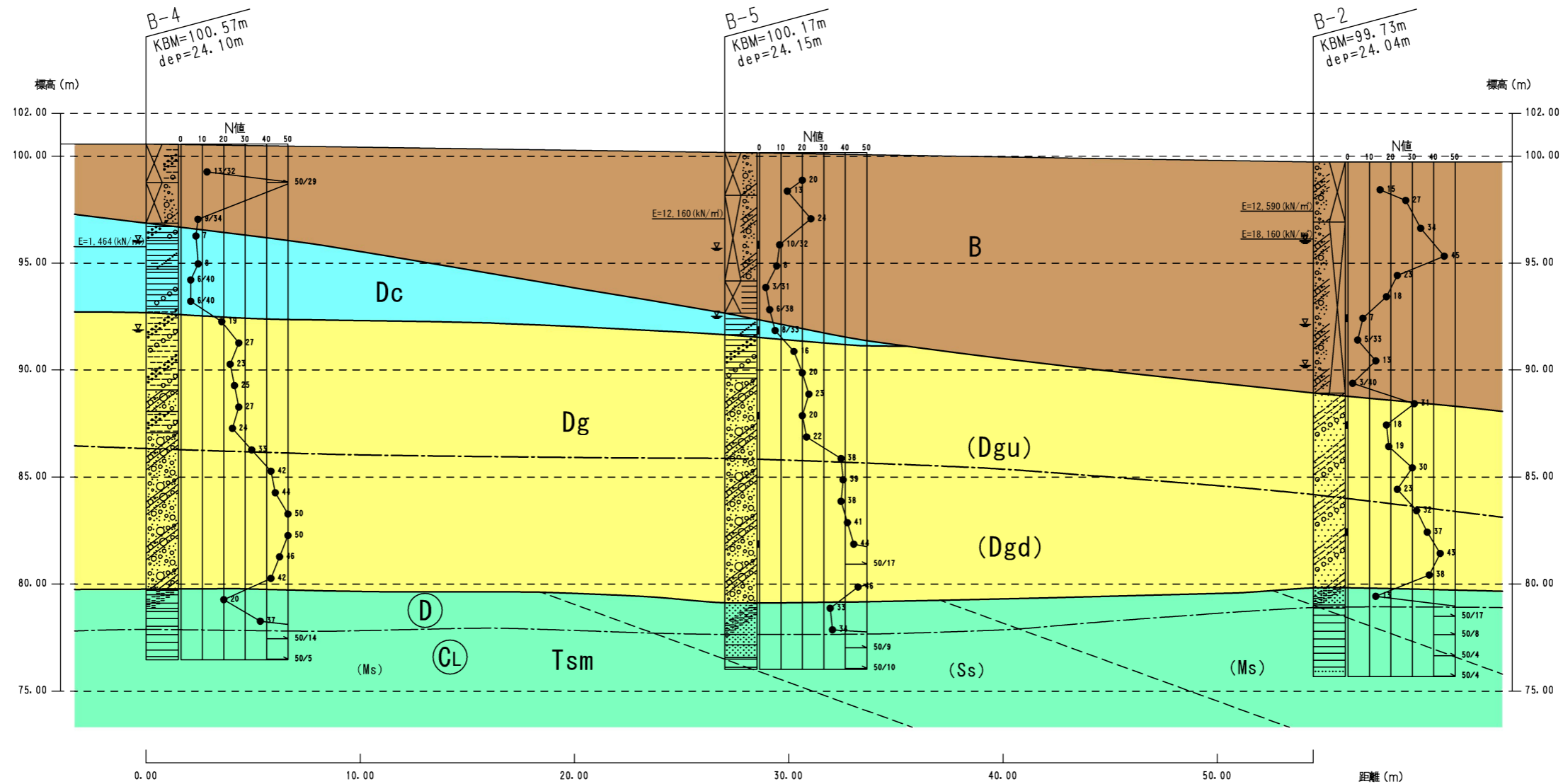


地質年代	地層名	記号	主な土質	層厚 (m)	N 値 [岩級]	記事		
第四紀	盛土	B	シルト質砂礫	3.7 ~ 10.8	2 ~ 50/29	土質構成、締り度とともに乱雑で、所々で砂礫や礫混り粘土の産状を示し、N値のパラッキも大きい。礫は砂岩、泥岩、玄武岩様の数mm~5cm大の角礫主体で、10cm大の巨礫が点在する。また、稀にコンクリート片やワイヤー片が混入する場合がある。		
新第三紀	土岐砂礫層	Dc, Dgu, Dgd	粘土質砂礫	1.0 ~ 4.0	5 ~ 11	比較的均質な粘土に、不均質に砂やチャート等の風化細礫が混じる。上面付近は腐植臭のする場合がある。		
				5.2 ~ 12.2			7 ~ 33	土質構成にムラがあり、不規則に砂や粘土が優勢となる場合がある。粘土は風化生成物で、礫は数mm~5cm程度の、軟質な風化礫と硬さの残るチャート礫から成る。N値は深部に向かい大きめとなる傾向にある。
				3.9 ~ 7.04				
中新世	可児夾炭層	Tsm	砂岩泥岩互層	1.1 ~ 2.15	12 ~ 37 [D]	細粒砂岩と泥岩の互層から成る。風化によりハンマー軽打で容易に潰れる程度に軟質化が進んでいる。		
				1.1 ~ 3.04			50/17 ~ 50/4 [CL]	細粒砂岩と泥岩の互層から成る。概ね均質で亀裂は比較的少なく、岩片は全体にハンマーの中~軽打で割れる程度の固さを有する。

B-B' 断面



地層層序と各層の特徴							
地質年代	地層名	記号	主な土質	層厚 (m)	N 値 [岩級]	記事	
第四紀	現世	盛土	シルト質砂礫	3.7 ~ 10.8	2 ~ 50/29	土質構成、締り度合ともに乱雑で、所々に砂礫や礫混り粘土の産状を示し、N値のパラッキも大きい。礫は砂岩、泥岩、玄武岩様の数mm~5cm大の角礫主体で、10cm大の巨礫が点在する。また、稀にコンクリート片やワイヤー片が混入する場合がある。	
新第三紀	鮮新世	土岐砂礫層	粘土質砂礫	Dc	1.0 ~ 4.0	5 ~ 11	比較的均質な粘土に、不均質に砂やチャート等の風化細礫が混じる。上面付近は腐植臭のする場合がある。
				Dgu	5.2 ~ 12.2	7 ~ 33	土質構成にムラがあり、不規則に砂や粘土が優勢となる場合がある。粘土は風化生成物で、礫は数mm~5cm程度の、軟質な風化礫と硬さの残るチャート礫から成る。N値は深部に向かい大きめとなる傾向にある。
				Dgd	3.9 ~ 7.04	32 ~ 50/17	層相はDguと同様。B-3地点ではこの層は出現しない。
中新世	可児夾炭層	Tsm	砂岩泥岩互層	1.1 ~ 2.15	12 ~ 37 [D]	細粒砂岩と泥岩の互層から成る。風化によりハンマー軽打で容易に潰れる程度に軟質化が進んでいる。	
				1.1 ~ 3.04	50/17 ~ 50/4 [CL]	細粒砂岩と泥岩の互層から成る。概ね均質で亀裂は比較的少なく、岩片は全体にハンマーの中〜軽打で割れる程度の固さを有する。	



地層断面図 (B-B') S=1:250

ボーリング柱状図

調査名 新火葬場建設に係る地質調査業務

事業・工事名

ボーリングNo

シートNo

ボーリング名	B-1	調査位置	岐阜県美濃加茂市峰屋伊瀬入会字栗地37番地7	地内	北緯35°27'22.07"
発注機関	可茂衛生施設利用組合	調査期間	平成27年6月11日～27年12月25日	東	東経136°59'51.03"
調査業者名		現場代理人	ア コ 鑑 定 者	ボーリング責任者	
孔口標高	KBM=99.82m	方位	北0° 270° 西 180° 南	ハンマー落下用具	半自動落下装置
総掘進長	24.12m	角	180°上 90° 下 0°	エンジン	ヤンマー NFD-9
		度	鉛直 90° 0°	ポンプ	東邦地下工機 BG-3C

標尺	層厚	標高	柱状図	土質区分	色	相対稠密度	相対角度	記	標準貫入試験			原位置試験		室内試験	掘進	
									深	度	値	深	度			試験名
1				盛土・シルト質砂礫	濃暗灰			礫は径2~3cm以下の角~亜角が多く、礫種は、1m及び8m付近には玄武岩質が多く、その他は砂岩が多く、最深部の10~20cm間は砂岩礫主体の砂礫で細粒分が少ない。全体に若干の含水があるが、3m付近は比較的少ない。細粒分と砂の混入状態は不均質。	1.15	1	2	3	6	5		
2									1.50	3	4	10	2.00			
3									1.65							
4									1.95							
5				盛土・質粘土質砂礫	暗褐色			礫は、主に風化軟質化した砂岩の重出~亜角礫で最大径は1cm以外。礫含有率は30~50%程度。全体に含水は少ない。	2.95	7	15	19	41			
6									3.25							
7				砂混り粘土	褐色			腐植質有り。含水は中位。草根片点存在。数mmの軟質な風化礫が点在する。	4.15	10	12	8	30			
8									4.45							
9									5.15	1	2	2	5			
10									5.45	1	1	2	4			
11									6.15							
12									6.45	3	4	4	11			
13									7.15	2	2	3	7			
14									7.45							
15									8.15	3	4	5	12			
16									8.45							
17									9.15	3	4	5	12			
18									9.45							
19									10.15	4	5	6	15			
20									10.45							
21									11.15	7	7	7	21			
22									11.45							
23									12.15	6	6	6	18			
24									12.45							
25									13.15	5	5	8	18			
26									13.45							
27									14.15	12	9	12	33			
28									14.45							
29									15.15	7	10	11	28			
30									15.45							
31									16.15	11	12	13	36			
32									16.45							
33									17.15	11	14	15	40			
34									17.45							
35									18.15	9	11	19	39			
36									18.45							
37									19.15	11	11	20	42			
38									19.45							
39									20.15	10	15	20	45			
40									20.45							
41									21.15	9	10	7	26			
42									21.45							
43									22.15	7	8	10	25			
44									22.45	50	50	9	167			
45									23.05	9						
46									23.14	50	50	7	214			
47									24.05	7						
48									24.12							

ボーリング柱状図

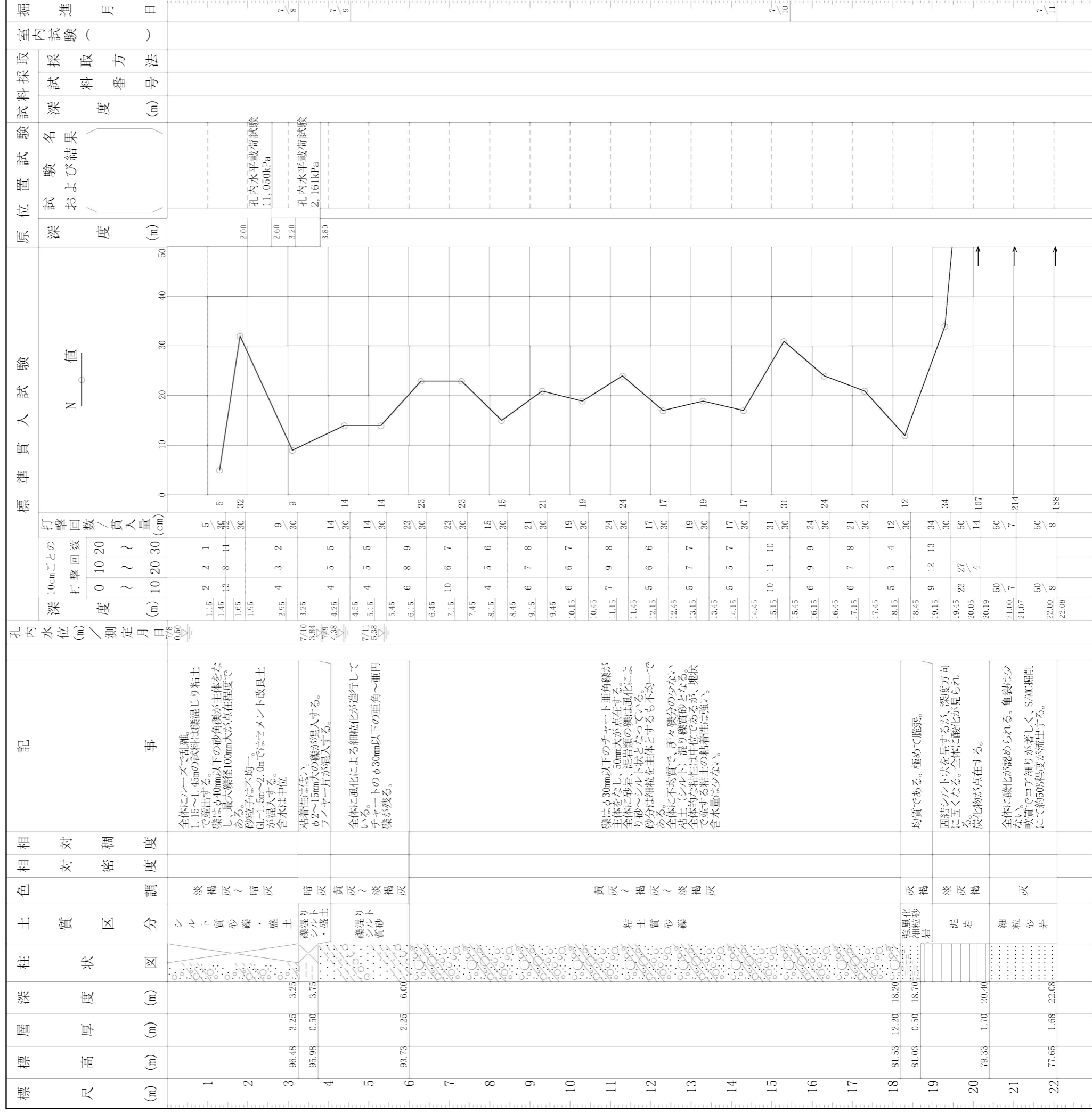
調査名 新火葬場建設に係る地質調査業務

事業・工事名

ボーリングNo

シートNo

ボーリング名	B-3	調査位置	岐阜県美濃加茂市蜂屋伊瀬入会字栗地37番地7	地内	北緯 35° 27' 22.10"
発注機関	可茂衛生施設利用組合	調査期間	平成 27年 6月 11日 ~ 27年 12月 25日	東	経 136° 59' 53.00"
調査業者名		現場代理人	ア コ 鑑 定 者	ボーリング 責 任 者	
孔口標高	KBM= 99.73m	方位	北 0° 270° 西 90° 東 180° 上 90° 下 0° 南	使用機種	ハンマー 落下用具
総掘進長	22.08m	角 度		エンジン	ヤンマー NFD-10
		主任技師		ポンプ	カノ V-4



ボーリング柱状図

調査名 新火葬場建設に係る地質調査業務

事業・工事名

ボーリングNo

シートNo

ボーリング名	B-5	調査位置	岐阜県美濃加茂市峰屋伊瀬入会字栗地37番地7	地内	北緯 35° 27' 21.25"
発注機関	可茂衛生施設利用組合	調査期間	平成 27年 6月 11日 ~ 27年 12月 25日	東	東経 136° 59' 51.94"
調査業者名		現場代理人	ア コ 鑑 定 者	ボーリング責任者	
孔口標高	KBM= 100.17m	方位	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	ハンマー落下下装置	
総掘進長	24.15m	角	180° 上 90° 0° 下	エンジン	ヤンマー NFD-9
		地盤勾配	鉛直 水平 0° 90°	ポンプ	東邦地下工機 BG-3C

標尺 (m)	層厚 (m)	柱状図	土質区分	色相対稠度	相対稠度	記	孔内水位 (m) / 測定月日	標準貫入試験			原位置試験 深度 (m)	試験名および結果	試験料採取 試験料番号	室内試験 () 採取方法	掘進 月日
								深	10cmごとの 打撃回数	貫入量 (cm)					
1	2.00	盛土・粘土混り砂礫	暗灰			礫は玄武岩質で主に1~5cm内外の角マトリクスは不均質で、やや粘土分優勢。	7.24 4.47	1.15 1.45 1.65 1.95	9 5 6 7 3 3 30	20 13				7/22	
2	2.00	盛土・粘土質砂礫	暗灰			全体に不均質な状態にある。礫は径3cm内外~数mmで、5m付近までは角~亜角でこれより以深は亜円~亜角が多い。	7.24 4.47	2.95 3.25	6 7 11 24	24	孔内水平載荷試験 12.160kPa			7/22	
3	4.00	盛土・粘土質砂礫	暗灰			礫種は、4m付近まで玄武岩質、5m付近まで砂岩主体、5m以深はチャート優勢となっている。	7.24 4.47	4.15 4.47	3 2 5 12	10 32	5P-4 ①			7/23	
4	6.00	盛土・粘土質砂礫	暗灰			不均質な状態にある。含水少ない。礫は軟質な砂岩礫などが多い。	7.24 4.47	6.46 7.15	0 1 2 8 13	3 31	5P-4 ①			7/23	
5	1.50	砂混り粘土	褐灰			7m付近より下部は泥質岩、硬質砂岩の角~亜角礫が多く、粘土質砂礫となる。	7.24 4.47	7.53 8.15	2 2 4 30	8				7/23	
6	1.50	砂混り粘土	褐灰			比較均質。含水少ない。風化石英、長石類の粗砂~細礫が点在する。	7.24 4.47	8.48 9.15	1 2 5 13 33	7				7/23	
7	1.00	砂混り粘土	褐灰			不均質な状態にある。含水少ない。風化軟質化した礫は、形状は異なるが容易に砂状になる。硬質な状態で残る礫はほとんどがチャート。	7.24 4.47	8.48 9.15	6 5 5 30	16				7/23	
8	8.50	砂混り粘土	褐灰			下部で礫分が多くなり下位層へ漸移する。	7.24 4.47	10.15 10.45	6 6 8 20	20				7/23	
9	10.50	粘土質砂礫	黄褐 灰			上部層に礫分が多くなった状態であり、上位層との境界は不明瞭。	7.24 4.47	11.15 11.45	7 7 9 30	23				7/23	
10	2.05	粘土質砂礫	黄褐 灰			全体に不均質。	7.24 4.47	12.15 12.45	6 6 8 20	20				7/23	
11	2.05	粘土質砂礫	黄褐 灰			上位層に礫分が多くなった状態であり、上位層との境界は不明瞭。	7.24 4.47	13.15 13.45	7 7 8 22	22				7/23	
12	2.05	粘土質砂礫	黄褐 灰			上位層に礫分が多くなった状態であり、上位層との境界は不明瞭。	7.24 4.47	14.15 14.45	7 8 23 30	38				7/23	
13	2.05	粘土質砂礫	黄褐 灰			上位層に礫分が多くなった状態であり、上位層との境界は不明瞭。	7.24 4.47	15.15 15.45	8 12 19 30	39				7/23	
14	2.05	粘土質砂礫	黄褐 灰			上位層に礫分が多くなった状態であり、上位層との境界は不明瞭。	7.24 4.47	16.15 16.45	12 12 14 30	38				7/23	
15	2.05	粘土質砂礫	黄褐 灰			上位層に礫分が多くなった状態であり、上位層との境界は不明瞭。	7.24 4.47	17.15 17.45	11 13 17 41	41				7/23	
16	2.05	粘土質砂礫	黄褐 灰			上位層に礫分が多くなった状態であり、上位層との境界は不明瞭。	7.24 4.47	18.15 18.45	16 13 15 44	44				7/23	
17	2.05	粘土質砂礫	黄褐 灰			上位層に礫分が多くなった状態であり、上位層との境界は不明瞭。	7.24 4.47	19.15 19.45	17 33 7	88				7/23	
18	2.05	粘土質砂礫	黄褐 灰			上位層に礫分が多くなった状態であり、上位層との境界は不明瞭。	7.24 4.47	20.15 20.45	12 13 21 46	46				7/23	
19	2.05	粘土質砂礫	黄褐 灰			上位層に礫分が多くなった状態であり、上位層との境界は不明瞭。	7.24 4.47	21.15 21.45	12 11 10 33	33				7/23	
20	2.05	粘土質砂礫	黄褐 灰			上位層に礫分が多くなった状態であり、上位層との境界は不明瞭。	7.24 4.47	22.15 22.45	7 12 15 34	34				7/23	
21	2.05	粘土質砂礫	黄褐 灰			上位層に礫分が多くなった状態であり、上位層との境界は不明瞭。	7.24 4.47	23.10 23.19	50 9	167				7/23	
22	2.05	粘土質砂礫	黄褐 灰			上位層に礫分が多くなった状態であり、上位層との境界は不明瞭。	7.24 4.47	24.05 24.15	50 10	150				7/23	
23	2.05	粘土質砂礫	黄褐 灰			上位層に礫分が多くなった状態であり、上位層との境界は不明瞭。	7.24 4.47	24.05 24.15	50 10	150				7/23	
24	2.05	粘土質砂礫	黄褐 灰			上位層に礫分が多くなった状態であり、上位層との境界は不明瞭。	7.24 4.47	24.05 24.15	50 10	150				7/23	